
だいすきだもん。

結椅

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

だいすきだもん。

【Nコード】

N1157F

【作者名】

結椅

【あらすじ】

いつも通りの朝。いつも通りの駅。違っていたのは、君との出会いだった。

『すきですっ！！！！！大好きです！！！！！！』

朝の駅のホーム。いつもと何ら変わらない今日・・・

のはずだった。

今叫んだのは名前も知らない女の子。

・・・なんで？

「・・・えつと？」

どんな反応していいか、わからない。

女の子は、顔真っ赤にして息を切らしている。

もちろん朝のホーム。

周りの人たちが騒いでる・・・

・・・。。どうしようか。

とりあえず。

「ちょっと、来てくれる？」

女の子を引っ張って静かな場所へ。

「ふ〜。」

チラ、と時計を覗く。

あちゃ〜完璧遅刻だ。

ま、いつか。

そんなことを思いながら女の子を見る。

「？」

さっきの元気は・・・？ってくらいシヨボンとしてた。

「・・・どうしたの？」

今の疑問をそのまま言ってみた。

『・・・あの、迷惑でしたよ、ね？』

自分の靴を見ながら今にも消えそうな声で言った女の子。

・・・迷惑？んー、迷惑、だったのかなあ、俺。

「・・・大丈夫。迷惑なんて、思っ
てないから。」

俺がそうゆつとホッとしたのか、

少し申し訳なさそうに微笑んできた。

それに少しドキッとしながら俺は本題に移った

「なんで、告白してきたの・・・??」

そう聞くと、きょつとんとした彼女。

『??・・・好き、だからです・・・。』

そう堂々と言える彼女が羨ましいと思った。

「そっか。・・・うん、そうだね。」

もしかしたらこの出会いも、なにかの縁なのかもしれない

「今すぐには返事は出来ないけど、これから君の事

知っていきたい、って思うよ。」

そうゆくと、元気な声で

『はいっ！..!』

って。

それから俺たちが名前で呼び合うような

関係になるのは・・・

もう少し先のこと・・・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1157f/>

だいすきだもん。

2010年10月11日02時23分発行